

季刊 すまいる



味噌

京都の味噌は「白味噌」のイメージが強いが、赤味噌や柚味噌、田楽味噌など様々な味噌を取り揃えている老舗が多い。平安時代に京都で誕生した白味噌は、米麹が多く塩分が少ない上、熟成期間が短いため、長蔵食材として発達した他の多塩味噌と異なり上品な甘みがある。原料や米麹の良し悪しが味に出してしまう繊細な味噌で、京料理には欠かせないものである。



大原女

市内中心部から北東15kmほどに位置する大原。平安時代より、この地から都まで炭や薪などを頭にのせて売り歩いた女性行商のこと。平清盛の娘・建礼門院徳子の次女、阿波内侍の着物姿が原型といわれる。5月には行列イベントの「大原女まつり」や、大原女姿で観光をすると特典が受けられるサーピスなど、現在でも大原女を体感することができる。



木の芽

山椒の若芽のこと。木の芽の佃煮である「木の芽煮」は、鞍馬の銘産品。平安時代末期、牛若丸(源義経)が鞍馬寺で修行を積んでいた時に常食していたあけびの蔓、山椒、山ぶきを塩で漬けたこんだ木の芽漬けが起源とされており、そこから昆布や山椒の葉実を醤油で煮込んで作られるようになったといわれている。



桜エビ

静岡県駿河湾のみで漁が行われている桜エビ。4〜5cmの小さな海老で、水中では透明だが、水揚げされると桜色になることから、その名で呼ばれる。春と秋の年2回の漁期があり、干物や冷凍加工されて全国に出荷される。カルシウムをはじめたんぱく質やミネラルが豊富に含まれている旬を堪能できる食材である。

東寺

8世紀末、平安建都の際に作られた国立の寺院で、現在まで残る唯一の平安京の遺構。天皇より東寺を託された弘法大師空海が、密教の教えを伝えようとして建てた「講堂」をはじめ、木造建築で日本一の高さを誇る「五重塔」などがある。春は桜、秋は紅葉の名所としても知られ、特に不二塔と五重塔の姿は多くの人々を魅了している。



医療と政治の両面から 安心して暮らせる 社会の仕組みを作る

対談

京都清水メディケアシステム会長
医療法人清水会理事長
一般社団法人京都私立病院協会会長

清水鴻一郎氏



医療法人啓信会理事長

中野博美氏



脳神経外科医である清水鴻一郎さんは、京都府議会議員を四期、衆議院議員を二期計22年間、医師としての立場から長年政治に携わってこられました。社会保障政策を広く討議する有識者会議である「社会保障国民会議」の立ち上げにも尽力されました。今年の春には医療と介護のトータルメディケアゾーンを開設し、地域に貢献されています。詳しいお話をお伺いしました。

高齢化社会に見合った医療と介護のネットワーク作り

中野 清水先生とは、父親同士が友人で親子二代にわたる長いお付き合いになります。

最近新しい施設を開設されたということで、清水先生の事業の現況と方針についてお伺いしたいのですが。

清水 私と中野先生とは子どもの頃の半ズボン姿も見ている間柄ですね。恐らく今の京都の医療界の仲間の中で、そこまでの旧知の仲は中野先生だけだと思います(笑)。お互いに何でも話せて、非常に心を許したお付き合いをさせていただいております。

今お話にありました新しい施設というのは、京都市消防学校の跡地に3月

30日に開設した「ケアフルヴィレッジ 伏見しみずの郷」という名称で、「京都リハビリテーション病院」という回復期リハビリテーション病院と、特別養護老人ホーム「深草しみずの里」、介護老人保健施設「深草しみず」の3つの施設からなる医療と介護のトータルメディケアゾーンになっています。

中野 広さはどれくらいあるのですか？

清水 4500坪です。私の病院は400坪しかありませんでしたから、比較すると快適で魅力的な環境だと思います。京都市では近年、本格的な長寿社会を迎え、高齢者の保健福祉に対するニーズが高まっております。高齢者施策を総合的に推進するための計画「京都市民長寿すこやかプラン」に基づいて介護保険制度の円滑な運営や、介護基盤の整備に取り組んでおり、計画の一端であるこの施設の開設によって特別養護老人ホームは全市で85施設となりました。

1988(昭和63)年に私は大阪医科大学の脳神経外科を辞して、父の病院である医療法人清水病院を継承致しましたが、京都市内の64床の病院でベッド数が少なく、手術や治療が終わ



れば退院していただかざるをえない急性期の病院でしたので、2000年の平成12年に介護保険ができました折にも、患者さんのリハビリなどを含めた後方支援ができない状況でした。医療と後方支援をもっとスムーズに進めたいという思いから、1999年から2000年にかけて、同じ伏見区に介護老人保健施設「京しみず」と「第二京しみず」を作ったことが、高齢者の医療と介護の橋渡しに取り組み最初のことになりました。その後、在宅復帰できない方たちのための「終の住まい」が必要であると考えるようになった時に、井手町に特別養護老人ホームがなくて困っているので、やってくれないかという町長からの招致を受けまして、そこで社会福祉法人・井手町高齢者総合福祉センター「いでの里」を作らせていただきました。その後、伏見区にも「日野しみずの里」という特別養護老人ホームも開設しました。

昨年、地域医療構想という地域における医療と介護の総合的な確保を推進するための構想が策定されましたが、それ以前から回りへの方向に事業を展開させていた次第です。

近年、我々のような64床の病院が急性期高度医療を担って行くのは大変な時代になって来ましたが、どんどん進化する高度な医療機器を揃えなければ、高度な医療を維持できないとなると、客観的に見ても厳しいと考えて、回りハに特化する方向を選択したという事です。

中野 そうすると先生の事業内容の変遷というのは、自院の体制に合った施設構想に沿って進めてこられたのであって、昨今の地域医療構想や地域包括ケア体制などの新しい概念から始めたものではないということですね。

清水 そうですね。地域医療構想では2025年に到来する超高齢化社会に耐えうる質の高い医療と介護を地域で効率的に提供するための施策を実行することになっています。医療政策に関する権限と責任も国から地方に移譲し、地域の実情に合った、各病院の医療機能に沿った経営が求められるようになります。医療機関同士のバランス

の取れた医療機能の分化、連携の推進も大きな目的ですから、当然どの医療機能を担うのか意識して経営をしていかなければなりません。これまでのやり方では難しくなっていますよね。

中野 実は私共、城陽市のきづ川病院に關しても、15年くらい前に老人保健施設を作ったところから始まり、医療から介護に至るスムーズな流れを作るということで、現在患者さん全体の人数の6割5分くらいが介護です。急性期から回復期、慢性期の医療のベッドを揃えると今の形になったのですが、先生と同様の進み方をしたという事、今お話を聞いて驚きました。



清水 きづ川病院はベッド数も多く、城陽市の市民病院的な存在で、高度急性期、急性期、回復期、慢性期という4つの機能を自院で完結できるのが羨ましいですね。医療資源としてのベラスで考えるとベッド数というのは大きな問題ですからね。治療の後に介護という物を持って医療と介護を集結することができずから。私の病院は64床です。ですから機能を分けるにはベッド数においても、人的にも中途半端でなかなかできません。私の病院がある伏見区では、京都医療センターもあり、高度急性期、急性期を担い、マンパワーもある病院が多く存在していますから、我々はそれらの病院とネットワークを作って、回復期から慢性期、そして回りハ、老健、特養、在宅訪問介護や訪問看護、訪問リハなどの役割を担って行こうと考えた訳です。そうすることで、地域の人達にも安心していただけると同時に、我々も存在感を持てますからね。リハビリの後は我々が生涯しっかりとサポートしていきますから安心して下さいという方向を選択したということです。

私の専門は中野先生と同じ脳外科ですが、今の時代はERの時代になって、そうした専門店的なやり方を

転換していかざるをえない状況になりました。

中野 京都は回りハも全国平均を超えないくらい少ないですよ？

清水 そうですね。京都は回りハは圧倒的に少ないです。地域医療構想のデータから見ると、京都市内には高度急性期と急性期の病院が多いですね。自分自身の持っている医療資源とか、マンパワーも含めた地域での立ち位置を客観的に評価しながら、地域で何が求められているのかということに答えていくようにしなければならぬと思います。地域連携体制をしっかりと作って、患者さんの移動の際には、治療にタイムラグができないようにしていくことが大切です。

中野 先生のお考えは地域の方々にとっては大変ありがたいことだと思います。



組織活動の歴史と成果について

中野 清水先生は京都私立病院協会という、かなり歴史のある団体の会長をされています。

清水 京都私立病院協会は昨年50周年を迎えました。中野先生のお父上や私の父が一生懸命作った会が、京都府や京都市から直接予算をいただいて委託事業をできるほどの一人前の扱いを受けるようになったことは、非常にありがたいと思っています。

私立病院協会は民間の病院の立場であることがはつきりしていますし、医者だけの団体ではありません。医師・看護師・薬剤師などの特定の職能だけでなく、民間の病院全体として医者も看護師も事務長もコメディカルも全部がうまくやっているといるように立ち位置であるということ、ようやく行政にも理解していただけてきたと思います。

昨年の1月からは京都府から京都私立病院協会が運営を受託して、医療分野の勤務環境改善に取り組み医療機関をサポートする「京都府医療勤務環境改善支援センター」が開設されました。このセンターでは、理事長・院

長・事務長・看護部長など経営に携わる方を中心とした医療機関全体の勤務環境改善への支援を行うことを目的としています。また京都では大事な医療審議会や行政の諮問機関に我々が意見を言う場を持ち得たことは、50年の歴史の中で非常に大事なことだと思います。私立病院協会は全日病（公益社団法人・全日本病院協会）と一般社団法人日本医療法人協会の支部もお預かりしており、京都の民間の病院の総意はほぼ私病協で合意を得られていると思いますし、病院団体がまとまって一つの意見を発信できていると思います。

私立病院協会の中で合意した意見は京都市や京都府の行政や、あるいは色々な審議会に伝えるルートを持ったことで、少なくとも民間病院が不利益を被ったり、経営が健全にいかなくなることがないように、広く言えば厚労省にまで発信していける団体に育ってきたと自負しています。これは中野先生のお父上達が、行政や医師会とぶつかり合いながら尽力されてきたことが、今正に結実したということ、会はしっかり育っていますよということ吉報として申し上げたいなと思っております。



政治に携わるきっかけ

中野 清水先生が政治家として活動されるようになったきっかけは、どういう経緯だったのでしょうか？

清水 動機は単純な理由なのですが、介護保険ができる時に、私の病院の患者さんの流れもある中で、老人保健施設が必要であると思いついて、予定地について行政に尋ねに参りましたところ「市街化区域でなければだめですよ」と言われました。平成3年か4年頃、京都には「白寿」という施設しかなかった頃です。市街化区域に千坪単

位の土地などなかなかないし、老人保健施設は利益の多い事業ではないので、これは参ったなと思いました。

市街化調整区域でも可能だと書類には書いてあったのですが、行政は市街化区域でもっとよく探せと言って譲らない。

それで僕は伏見中学、桃山高校出身なんですけど、地元と同級生に「誰か相談できる政治家を知らないか」と相談したところ、誰も知らないと言う。丁度その相談をしている時に、京都府議会議員の補欠選挙があるから、そんなに困っているなら出てみたらどうだという話になりました。私が47才の頃で、まだ父親も現役でしたので、友人や父の友人知人の応援も頂いて、1993（平成5）年に23851票を取って府会議員に当選したんです。最初は府への怒りというか、もう少し話を聞いてくれてもいいんじゃないか、前例がないと言うが、前例のないことをしていかないと何も変わらない、これが役所の体質なのかと思ったのが動機だったんですね。

府議会議員になれば、一市民の意見ではなく23851人の民意ですから、もう少し柔軟に対応していただけるように上の人に話をして、決めてもらいました。他にも、当時京都では乳

幼児の死亡率が高かったのですが、基準に合ったNICVを作ったら非常に良くなったんですね。僕にもやれることがあるんだという実感を頂きました。最終的には15年間、府議会議員として四期やりました。そうして段々と国の根本的な施策に関わってみたくてという気持ちが大きくなり、2005年に衆議院議員になりました。衆議院はトータルして5年間ですね。



国会での実績

清水 当時、経済財政諮問会議が全盛の頃で、全てが経済を基盤に議論され

ていました。私は経済も大切だけれども、社会保障も大事だから社会保障諮問会議も作って欲しいと、それを常々提言したいと思っておりました。

それが福田康夫総理の時、中山太郎さんの口利きで総理官邸に伺い、総理は30分間、一議員である私の話を聞いてくれました。その甲斐あって、日本の社会保障制度のありかたを検討する会議である「社会保障国民会議」を立ち上げることができたのは、今でも自慢できる一つの提言だったと自負しております。

やはり経済と医療、双方からの意見の中で、どうしても外せないものがあります。社会保障国民会議の方は、ある意味で財政のことは少し無視してでも、社会保障を守るといふ意見を上げてもらおうということなんです。この件で国が決めた法律でも、働きかけ次第である種変えることができるという実感を頂きました。

また、日本の子どもは海外に行かなければ臓器移植はできなかつたのですが、「臓器移植法案」の改正を行って少なくとも日本でも臓器移植が実施できるといふ道を作りました。仮に臓器をあげたい人がいて、その臓器をもらいたい人がいるのであれば、その間のアクセスがスムーズにできるような道

だけは、効率的に作っておくべきだと考えたからです。日本の子どもたちにも臓器移植の可能性の灯りをともしたことは、医者であり政治家でもある私に、周りを説得して回らなければ、実現しなかつたかもしれない。他にも妊婦健診の14回無料化や不妊治療の助成金・出産一時金の増額を実現したり、各都道府県に新生児集中治療室を備えた「母子医療センター」の設置を決定するなど色々な実績を残しました。

中野 本日は貴重なお話をありがとうございました。



医療法人清水会理事長
一般社団法人京都私立病院協会会長
清水 鴻一郎 (しみず こういちろう)

- 1946(昭和21)年 京都市伏見区にて出生
- 1973年 大阪医科大学卒業
- 同年 京都大学医学部 脳神経外科 入局
- 1980年 大阪医科大学院 博士課程 修了(医学博士)
- 1986年 大阪医科大学 脳神経外科 助教授
- 1988年 医療法人清水病院 院長
- 1993年 京都府議会議員(1期)
- 1995年 京都府議会議員(2期)
- 1999年 京都府議会議員(3期)
- 2002年 医療法人清水会 京都伏見しみず病院 理事長
- 2003年 京都府議会議員(4期)
- 2005年 衆議院議員(初当選)
- 2013年 衆議院議員(2期目)

ともに歩む姿勢で 笑顔のくらしをサポート

リエゾン健康村(京田辺市大住)

すまいる レポート

啓信会グループ
関連施設



● 地域にひらかれた施設に

2007年に開設した介護サービス施設「リエゾン健康村」には、「デイサービスセンター」「グループホーム」「小規模多機能ホーム」「ケアプランセンター」の4事業所を設置しています。

地域の方が自由に参加できる「すこやかカフェ」を月に一度、夏には夏祭りを開き地域との交流も増えています。イベントの企画や施設内での工夫もスタッフの提案を取り入れているという岡井センター長。「利用者様を第一に考えることを基本に、職員も暮らしと一緒に楽しめたらいいですね」と話しています。満足度アンケートなどから、ご利用者からの意見も積極的に日頃のケアに生かすよう努めています。



岡井千恵センター長

デイサービスセンター

訓練に特化したサービスを午前と午後の2部行っています。ご利用者は健康チェックのあと、個々の生活に見合った目標に向かって個別機能訓練に取り組んでいます。岩盤足浴器と泡とオゾンの足浴器が自由に利用できて人気。

グループホーム

認知症の方が共同生活を送っています。「わが家」のように過ごしていただきながら、生活に密着した機能訓練を行っています。現在9名のうち8名が女性ということもあって、調理などに意欲的な方が多いようです。



グループホーム

小規模多機能ホーム

「通い」「泊まり」「訪問」の3つのサービスを、一つの事業所で環境を変えずに受けることが可能。

ケアプランセンター

基本的に365日営業で、遅い時間や日曜日などでも事情にあわせてうまく利用されるご家族が増えていきます。様々なサークル活動があり、ハンドベル「ドレミ・クラブ」は定期的に発表会を催し、園芸クラブは近くの農園で野菜を育て、食材に生かすなどして楽しんでいます。年に一度は、ご家族も参加できる観光バスを借りての遠足にも。職員にとってもリフレッシュとなるひとときを過ごしています。



ケアプランの作成のためのご相談、作成を行う居宅介護支援サービスです。ケアマネジャーが6名在籍し、啓信会のなかでは最も大きいセンター。近隣地域との情報交換も密にしながら、24時間連絡可能な体制で、ご利用者が住み慣れた家で生活されることをサポートしています。



元気アップ・コラム

おいしく、体にいい「旬」の食材を食べよう

春から新生活をスタートさせる方も多いことでしょう。食生活を見直すきっかけにもなりますね。最近では食材が一年中、豊富に出回り、「旬」がわかりにくくなっていますが、季節ごとの「旬」のものは、おいしく栄養価が高く、お財布にもやさしいもの。食生活に上手に取り入れ、自然の恵みをたくさんいただきましょう。

●三つの「旬」

春夏秋冬それぞれに食べごろを迎える「旬」のもの。さらに三つの時期に分かれており、その食材が出始めるころを「はしり」、最もよく出回り濃厚な味わいのころを「さかり」、そして時期が終わりかけたころを「なごり」と呼びます。食材の味わいも変化します。たとえば野菜なら「はしり」は柔らかく、「なごり」には繊維がしっかりとしてくるなど、それぞれの時期で特徴があり、味わい方があります。日本人は昔から四季の味を繊細に楽しむ食文化を培ってきたのです。

また、旬のものは大量に収穫できるので安価で購入できるのもうれしいですね。

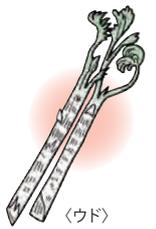
●体調をサポートしてくれる

さらに、栄養価が高く、その季節に合わせて体調を整えてくれる働きを期待できる成分が多く含まれています。

たとえば、春は、「苦みを食べよ」と言われるように、タケノコ、ウド、フキノトウなどの食材が旬を迎えますが、これらの食材には冬の間に沈静化していた体を目覚めさせ、春の陽気からくるのぼせを防いでくれる役割があります。

夏にはキュウリやウリ、スイカなど、水分の多い野菜や果物が多く出回り、秋から冬にかけては、脂肪の多い木の実や魚、体を温めてくれる根菜類が旬を迎えます。

このように私たちの体を元気にしてくれる旬の食材。変化に富んだ四季を舌や目で楽しみながら、バランスの良い食生活を送りましょう。



（ウド）
（タケノコ）

わが町 歴史探訪

古代からの歴史に彩られた街、城陽市。当院のご近所の史跡をご紹介します。

縄文時代から古墳時代にかけての集落跡。

史跡公園 「森山遺跡」

歴史ある城陽市には、国の史跡が多くあります。縄文時代から古墳時代にかけての集落跡「森山遺跡」もその一つです。市の

ほぼ中央部、JR長池駅から北側に10数分歩いた丘陵地にあります。

1976（昭和51）年に発見、発掘調査が行われました。縄文時代の円形の竪穴住居6棟と配石遺構1基、埋石1基が見つかり、住居内では炉の跡が確認されています。出土した縄文土器から、縄文時代後期中葉の遺構であることがわかりました。また、弥生時代の竪穴住居、古墳時代の方形周溝状遺構と竪穴住居なども見つけられ、方形周溝状遺構は「豪族居館」とされています。



出土した遺物からは、各地とのさまざまな交流が浮かび上がり、古代からここが豊かな恵みある地で、活発な流通網があったことがうかがえます。1978（昭和53）年に、国の史跡指定を受けました。

その後1993～95年度に整備が行われ、「正道官衙遺跡」に次ぐ市内で2番目の史跡公園となりました。縄文時代の大型竪穴式住居1棟の骨組みが復元されています。子どもたちがのびのびと遊びながら、古代の暮らしに触れられる環境で、市民の歴史学習の場として活用されています。

（協力：城陽市観光協会／協力：写真提供：城陽市歴史民俗資料館）

病院内の行事や予定などのお知らせです。
また、病院のホームページでは、最新の情報を掲載していますので、ぜひご覧ください。

啓信会

ウェブ検索

<http://kyoto-keishinkai.or.jp>

春の文化講演会のお知らせ

講師	医療法人社団鉄祐会 理事長 武藤 真祐 先生
演題	超高齢社会を支える在宅医療・介護の発展
日時	2016年 6月25日(土) 14:00~16:00 (受付13:00~)
場所	京都ホテルオークラ 入場料 無 料
連絡先	0774-54-1111 (担当: 地域医療支援室・西)
主催	医療法人啓信会 京都きづ川病院



京都きづ川病院

院長 中川 雅生
TEL.0774-54-1111 FAX.0774-54-1118

医療法人 啓信会 京都四条病院

<京都市下京区東堀川通四条下ル東側>
院長 中野 昌彦
TEL.075-361-5471
FAX.075-343-9211

医療法人啓信会 介護老人保健施設 萌木の村

<城陽市寺田奥山1-6>
施設長 大隅 喜代志
TEL.0774-52-0011
FAX.0774-52-0701

医療法人啓信会 介護老人保健施設 ひしの里

<久世郡久御山町佐古内屋敷81-1>
施設長 横田 敬
TEL.0774-43-2626
FAX.0774-43-2627

医療法人 啓信会 きづ川クリニック

<城陽市平川西六反44>
院長 青谷 裕文
TEL.0774-54-1113
FAX.0774-54-1115

啓信会グループ

理事長 中野 博美

関連施設

- 京都四条診療所
- 四条健康管理センター

在宅サービス

訪問看護ステーション きづ川はろー
ヘルパーステーション 萌木の村 21
ヘルパーステーション リエゾン大津
ヘルパーステーション リエゾン大久保
ヘルパーステーション リエゾン四条
ヘルパーステーション リエゾン健康村
ヘルパーステーション リエゾン羽束師
デイサービスセンター リエゾン健康村
デイサービスセンター リエゾン久御山ひしの里
デイサービスセンター リエゾン羽束師
認知症対応型デイサービスセンター リエゾン 萌木の村
認知症対応型デイサービスセンター リエゾン久御山ひしの里
介護予防デイサービスセンター リエゾン 萌木の村
介護予防デイサービスセンター リエゾン宇治
居宅介護支援事業所 リエゾン大津
居宅介護支援センター 萌木の村
居宅介護支援センター リエゾン四条
ケアプランセンター リエゾン健康村

ケアプランセンター リエゾン久御山ひしの里
ケアプランセンター リエゾン羽束師
城陽市在宅介護支援センター 萌木の村

地域密着型サービス

小規模多機能ホーム リエゾン萌木の村
小規模多機能ホーム リエゾン健康村
小規模多機能ホーム リエゾン久御山ひしの里
小規模多機能ホーム リエゾン羽束師
グループホーム リエゾン萌木の村
グループホーム リエゾンくみやま
グループホーム リエゾン健康村
グループホーム リエゾン羽束師

教育部門

ケアスクールリエゾン 大久保校
ケアスクールリエゾン 大津校



医療法人 啓信会

京都きづ川病院

〒610-0101 城陽市平川西六反 26-1 TEL 0774-54-1111 FAX 0774-54-1119
URL <http://kyoto-keishinkai.or.jp/kizugawa>